

発刊のあいさつ

浦添市教育委員会教育長 福山 朝 秀

浦添市教育委員会は、一九八七年度（昭和六二年度）より「琉球王国評定所文書」の刊行事業を開始し、以後事業を順調に推し進め、昨年度までに十二巻を刊行いたしました。琉球王国の近世史ひいては日本史を研究するにあたって、大変重要な文書との高い評価を受けながらも、これまで同文書は断片的にしか翻刻出版されませんでした。当教育委員会では、現在確認されている全史料を「琉球王国評定所文書」全十八巻として刊行する予定です。

浦添市は、古琉球時代もつとも早く王権が確立した地域です。したがって、古くから沖縄本島の政治・経済・文化の中心地でありました。「うらおそい」の古名で『おもろさうし』にも登場しております。また、中国や東南アジア諸国との貿易活動によって、琉球の「大交易時代」を担いました。このような歴史を持つ当市は、「国際性ゆたかな文化都市」をめざしており、市の文化事業の一環としての、「琉球王国評定所文書」刊行事業を今後も推進してまいります。

今年度刊行の「琉球王国評定所文書」第十三巻には、内務省作成「旧琉球藩評定所書類目録」の通し番号で一五五〇号・一五五一号・一五五二号・一五五三号・一五五四号・一五五七号、以上の六つの文書を収録いたしました。一五五一号・一五五三号・一五五四号は、東京大学法学部法制史資料室所蔵の文書です。一五五〇号・一五五二号・一五五七号は、国立公文書館所蔵の文書です。

また近世末期の琉球王国へのフランス船来航や、琉球逗留中のフランス人へのさまざまな対応、また漂着した朝鮮人の介抱方など、具体的な記述が豊富に盛り込まれた史料群となっております。一五五〇号は、『沖縄県史料』前近代3に収録されている東京大学法学部法制史資料室所蔵の一五四九号文書と内容的に同一の史料となっておりますが、若干表記上の差異が認められます。また、一五五四号も、『沖縄県史料』前近代5に収録されております。これらの史料が多くの市民をはじめ、研究者の間で活用されることを願っております。

最後に、本事業のために貴重な史料を提供し、また、刊行について御快諾下さいました、東京大学法学部法制史資料室ならびに国立公文書館の関係各位、また、史料の筆耕解説にご協力下さいました研究者各位に深く感謝申し上げます、発刊の言葉といたします。

一九九七年（平成九年）三月吉日